

挨拶の言葉の研究

—福島県耶麻郡西会津町方言と首都圏の大学生の実態調査を通して—

川中子 善子

1. はじめに

私たちは日常生活で挨拶を交わすが、人口の多い街などでは、知人でないと声をかけたりはしない。ところが調査地の福島県耶麻郡西会津町大久保では、初対面の人にも声をかける姿が見られた。その中には、声をかけられて会釈を返すだけの人もいるが、初対面という違和感はない。ここでは、福島県耶麻郡西会津町方言の老年層・若年層の挨拶の言葉の調査結果と、首都圏に住む大学生の内省した結果をもとに、挨拶の言葉の変化する実態を出来る限り明らかにしていきたい。

2. 福島県耶麻郡西会津町方言

西会津町は雪深い小盆地で、ゆったりと時が流れているような所である。しかし、若い世代には、特徴とされるシ・ス・シュ・チ・ツ・チュ・ジ・ズ・ジュの音声の混乱や豊富な尊敬表現は残っていない。また、越後との交流の名残と言われている越後訛りや、会津地方の言葉使いにくらべて優しい響きを持つと言われる言葉使いなどの特徴も失われようとしている。

3. 方言区画において

福島県の方言は、全国の方言の分布からみると東北方言(南奥方言)に属するとされている。また、福島県には、阿武隈山地、奥羽山脈が走っていて、これにより浜通り、中通り、会津の三区分が生まれたと言われており、西会津町方言は、会津方言に属している。

4. アクセント・音声・音韻

アクセントは、型の対立のない崩壊アクセントであり、若年層も東京式アクセントに変わる傾向はみられない。

音声・音韻について最も特徴がみられる。老年層拍体系では、シ・ス・シュ・チ・ツ・チュ・ジ・ズ・ジュの音声の混乱のため共通語と比較し、シ・シュ・チ・チュ・ジ・

ジュに空欄がみられる。

母音音素ウ・エ・イについては特徴があり老年層でも個人差が大きい。ウは共通語より中舌化していることが多く、特にツ・ズ・ス・グ・クでは中舌化が明瞭である。エは西会津町には音韻論的対立のみられるエはない。しかし、共通語より、やや狭口の「エ」や広口「エ」、中舌化した「エ」などがみられる。そのため、しばしば「胃」と「柄」の音声と同じになることがある。エがイに変わることが多いが、逆のこともあり、個人差が大きい。イは共通語より広口の「イ」で、中舌化していることが多い。チ・ジ・シは、ツ・ズ・スに変わることが多いが、個人差もある。「煤」と「寿司」が同じ音声になることが多い。

半母音音素については、語によって特徴がみられる。西会津では「雪」の一語のみであるが特徴的な「ジュキ」(ジュチ)のような音となって現れる。また、「魚」は、カタカナで表記すると「オイヨ」となるが、音声では「イヨ」が一語であり、特徴的な音が現れる。

子音音素では、カ行の子音に特徴がみられる。「気持ち」が、「チモチ」に聞こえるように、語頭の「キ」が共通語の「チ」に似た音声に聞こえることがある。さらにカ行では、語頭以外では濁音に変わることもある。タ行も語頭以外では濁音化もある。さらに語頭以外のガ行音には鼻濁音化もみられる。

また、東京語と同様に無声子音に挟まれた狭母音の無声化もみられる。連母音は融合せず長音化されにくい傾向があるが、個人差も多い。

音声・音韻の特徴は東北方言によくみられるものと言えるがその音声の出方は幅が広く、個人差もみられるため、話者それぞれが答えてくれた時の音声进行调查資料とした。

5. 調査項目及び調査表

今まで西会津方言では、音声音韻、身体語彙、農業語彙などをおもに取り上げ、体系調査を行ってきた。挨拶の言葉についても同様にできる限り体系的にその実態をとらえ

るための調査表を作成した。まず、朝、昼、晩の日常的な挨拶に加え、晴れの挨拶、またその他の挨拶として「電話に関する挨拶」、「お店に関する挨拶」「仕事を行う時お互いを励ます言葉」や「仕事をやり終えた時に交わす言葉」、について取り上げている。さらに、「家族」「親しい人」「親しくない人」「初対面の人」「目上の人」「同じ年代の人」「目下の人」への挨拶という複数の調査項目とした。本稿では特徴のみられた朝、昼、晩の日常的な挨拶と店での挨拶を取り上げる。

6. 調査方法

調査方法としては面接調査を行い、こちらから質問し、答えて頂いた。共通語はなるべく出さないようにし、「○○の時、どのような挨拶をしますか。」と言う質問形式で行った。答えが出なかった場合や、共通語と違う言葉が出たときは「○○と言う言葉は使いますか」というように共通語を出して質問をした。大学生には調査表を見せ、自分の言葉を内省して記入してもらった。大学生の資料は最も多い回答を資料としている。

7. 話者と調査日

西会津町の話者はすべてその地に生まれ育ったはえぬきの方たちである。調査日は1999年7月28日、2002年7月28日、2003年7月29日である。話者の年齢は調査時のものである。(敬称略)

1999年：波田野秀夫(78歳)役場・農業、武藤忠雄(69歳)農業、清野キヨ(63歳)農業・主婦、佐久間智宏(18歳)高校生、伊勢亀香織(18歳)高校生、

2002年：清野フミエ(77歳)農業、清野司(80歳)農業・旅館、齋藤従徳(77歳)土木建設、井上志郎(63歳)電気関係

2003年：清野義美(81歳)農業、三留モト(94歳)農業、根元一(79歳)役場 である。

大学生資料は今年度講義を受け持った武蔵大学の学生(1年～4年)40名と聖徳大学(1年)90名である。学生の出身地は様々であるが、東京を中心としている。

8. 調査項目と結果(高年層、若年層は西会津町の話者の調査結果から、大学生資料の中から最も多い回答を主に示した)

○人と会った時

A 1. 朝、家族に

高年層：言わない

若年層：オハヨー

大学生：オハヨー

2. 朝、目上に

高年層：オハヨゴゼエヤス・オハヨウガンス・オハヨウザイヤンス

若年層：オハヨーゴザイマス

大学生：オハヨーゴザイマス

3. 朝、同じ年代の人に

高年層：オハヨウガンス・オハヨガス

若年層：オハヨー

大学生：オハヨー

4. 朝、目下に

高年層：オハヨウ・オハヨ

若年層：オハヨー・オハヨ

大学生：オハヨー・オハヨ

5. 朝、親しい人に

高年層：オハヨウ・アーイクノカ

若年層：オハヨー

大学生：オハヨー

6. 朝、親しくない人に

高年層：オハヨウゴザイマス

若年層：オハヨーゴザイマス

大学生：言わない

7. 朝、初対面の人に

高年層：オハヨウゴザイマス・会釈

若年層：言わない

大学生：言わない

B 1. 昼、目上に

高年層：コンツイワ・コンニツワ・コンニチワ

若年層：コンニチワ

大学生：コンニチワ

2. 昼、同じ年代の人に

高年層：コンツイワ・コンニツワ・コンニチワ

若年層：オー

大学生：オハヨー

3. 昼、目下に

高年層：コンツイワ・コンニツワ・コンニチワ

若年層：オー

大学生：オハヨー

4. 昼、親しい人に

高年層：オマエ ドコイツテキタ・コンニチワ

若年層：オー

大学生：オハヨ

5. 昼、親しくない人に

高年層：コンニチワ

若年層：コンニチワ

大学生：言わない

6. 昼、初対面の人に

高年層：コンニチワ・会釈

若年層：コンニチワ

大学生：言わない

C 1. 夕方と夜、目上に

高年層：オバンデゴゼエヤス・オバンデゴザヤン
ス・オバンニナリマシタ・オバンナヤシ
タ・オバンカタデス・オバンデス・コン
バンワ

若年層：オバンデゴザイマス・コンバンワ

大学生：コンバンワ

2. 夕方と夜、同じ年代の人に

高年層：オバンデヤス・オバンヤンショ・オバン
デス・コンバンワ

若年層：オー

大学生：言わない・(ナニシテルノ・イマカエル
ノ・オツカレー)

3. 夕方と夜、目下に

高年層：オバン・オバンデス・コンバンワ

若年層：オー

大学生：言わない・(ナニシテルノ・イマカエル
ノ・オツカレー)

4. 夕方と夜、親しい人に

高年層：オバンデス・ドコサンシャーノー・ドコ
サイッテキタンダー・ドコサイクダー・
コンバンワ

若年層：コンバンワ

大学生：言わない・オハヨー・コンバンワ

5. 夕方と夜、親しくない人に

高年層：オバンデス・コンバンワ

若年層：言わない

大学生：言わない

6. 夕方と夜、初対面の人に

高年層：オバンデス・コンバンワ・ヨクコラッチ
ャナー・会釈

若年層：言わない

大学生：言わない

D 1. 自分が帰宅した時家族に

高年層：言わない・イダカー・イマカエッタヨ
ー・キョーワアツイナー(サムイナー)

若年層：タダイマ

大学生：タダイマ

2. 家族が帰宅した時家族に

高年層：言わない・ハエカッタ(オソカッタ)ゴク
ローサン

若年層：オカエリ・オカエリナサイ

大学生：オカエリ・オカエリナサイ

○人と別れる時

A 1. 自分が外出する時家族に

高年層：言わない・イッテグル・イッテグッカ
ラ・イッテグルヨー

若年層：イッテキマス

大学生：イッテキマス

2. 家族が外出する時家族に

高年層：チオツケテネー・キーツケテイッテコラ
ンショオー

若年層：イッテラッシャイ

大学生：イッテラッシャイ

3. 夜寝る時家族に

高年層：言わない・ネルヨー

若年層：オヤスミ

大学生：オヤスミ

4. 夜寝る時目上に

高年層：言わない・ヤスマンショ・ネランショ

若年層：オヤスミナサイ

大学生：オヤスミナサイ

5. 夜寝る時同年に

高年層：ネンベ・ヤスマンショ・ネランショ・オ
ヤスミナサイヨー

若年層：オヤスミ

大学生：オヤスミ

6. 夜寝る時目下に

高年層：ネロー・ネロヨ・ネッペ

若年層：オヤスミ

大学生：オヤスミ

B 1. 今日の別れ、親しい人に

高年層：マタアシタナー・マタナー

若年層：バイバイ(バイバーイ)・マタネ

大学生：バイバイ(バイバーイ)・マタネ

2. 今日の別れ、親しくない人に

高年層：マタアシタナー・マタナー

若年層：サヨナラ

大学生：言わない

○店での挨拶

A 1. 店に入る時に言われる語

高年層：イラッシャイ・イラシャイマセ(オワエ

ナンショ・オワエナハンショ)

若年層：イラッシャイ・イラシャイマセ

大学生：イラッシャイ・イラシャイマセ

2. 店から出る時に言われる語

高年層：アリガトーザイヤンシタ・マタキランシ

ョー・マタオイデクダサイ・マタネー・

キーツケテカエランショ・ドーモネー・

アリガトーゴザイマシター

若年層：アリガトーゴザイマシタ

大学生：アリガトーゴザイマシタ

B 1. 店に入る時に言う語

高年層：コンツイワ・〜アッカ・ヤツテクナンシ

ョ

若年層：言わない・(スイマセン)

大学生：言わない・(スイマセン)

2. 店から出る時言う語

高年層：マタネー・アリガトーゴザイマシタ

若年層：言わない

大学生：言わない

9. 調査結果の分析

a 西会津町の特徴的結果

①「タダイマ」「オカエリ」「オヤスミナサイ」など定型的共通語の挨拶表現は、高年層にはなく若年層に生じている。同居する家族に対して日常会話的な挨拶は少ない。

②「オバンデス」は、よく使用され、若年層(女)は「オバンデゴザイマス」の形で目上の人に使用する。高年層には「オバンデゴザイマス」のほかに「オバンデゴザヤンス」「オバンカタデス」「オバンナイヤシタ」などがある。

③別れの挨拶は、家族に「イッテクルヨー」それに対して「イッテコランショ」「イッテキランショ」(いってらっしゃい)がみられた。また、道端で話をして別れたり、電話を切る時に、「ゴメンナンショ」「ゴメンサセテモライマス」なども使われている。また、「アンパスッペナイ」「タイヘンナテオサイシテ」などもある。

④共通語の「イラッシャイ」「イラッシャイマセ」にあたる「オワエナンショ」「オワエナハンショ」は、店で客を迎える時の挨拶としてかつて使われていたが、明治・大正生まれの故人が使用した言葉で、高年層からもほとんど聞かれない。現在では西会津町のシンボルの言葉として観光用の看板で目にするもののほうが多い。

b 首都圏に住む大学生の特徴的結果

①「オハヨー」「オハヨーゴザイマス」は時間に関係なく、

その日初めて会った時に使用する学生が多い。「オハヨー」は、主に家族や親しい友人や後輩に使用し、「オハヨーゴザイマス」は、親しい先輩や、アルバイト先で働くすべての人に使う。その他改まった場面や隣のおばさんなど目上の人には、朝だけ「オハヨーゴザイマス」を使う。

②「コンニチワ」「コンバンワ」は日常的には、隣のおばさん(おじさん)にのみ使用している学生が多い。親しい友人には使わない。

③別れの挨拶は「オツカレー」「ジャーネ」「マタネ」が多く使われ、親しい先輩や、先生、バイト先では「オツカレサマ」「オツカレサマデシタ」「シツレイシマス」が多い。

④店では、店員から「イラッシャイマセ」「アリガトーゴザイマシタ」と言われるが、自分から話すことはほとんどない。今まで一度も店の人と話したことがない学生もいた。

10. 終わりに

人々の生活が変化する中で挨拶の言葉もまた、大きく変わろうとしている。もともと家庭内で朝の挨拶を交わすようになったのは、『尋常小学読本』の国定教科書によって教育がなされてからという説もある。

西会津町の高年層は自分から家族に対して「オハヨー」「イッテキマス」と言う挨拶の言葉は交わさないが、家族への愛情は伝わってくる。

夕方以降の挨拶「オバンデス」は、首都圏では使用されず、方言にのみ残っている。また「今日は」「今晚は」は「こんにちわ」「こんばんわ」と表記の上でも変化しようとしている。さらに大学生に「シツレイシマス」の使用も大変増えており、中学から高校生になるに従って使用率が大きく増えていることが報告されている。

調査結果からみられることは、大きくは西会津町でも共通語化が進み、特徴的表現である俚言形が消えようとしていることが言えよう。一方首都圏の大学生では生活の変化によって「オハヨー」など時間と関係なく使用したり、「コンニチワ」のように限られた相手にだけ使用するように変化している。

親しい人にだけ挨拶する若者が増える中で、最近の新聞の読者投書欄でも『「ありがとう」うれしい一言』(ファストフード店やコンビニで交わされる「ありがとう」の話)や「あいさつには『魔法』の力が」(近所のおばさんとの挨拶の話)といった高校生の投書が掲載され、若い人の中にも「心をつなぐ言葉」として挨拶の大切さが指摘されている。

参考文献

1. 『講座方言学 北海道 東北地方の方言』 国書刊行会
1982年
2. 『西会津町史 第6巻民俗』 2000年
3. 『会津さ おわえなはんしょ』 根本一 民報印刷刊,
1997年
4. 『方言と標準語—日本語方言学概説』 筑摩書房, 1975年
5. 『全国方言辞典1』 平山輝男編 角川書店, 1983年
6. 『日本語講座第2巻 ことばの遊びと芸術』 「くらしの中の
ことば」 池田弥三郎 大修館書店, 1976年
7. 『国立国語研究所報告118学校の中の敬語1』 国立国語研究
所編三省堂2002年
8. 東京新聞, 2003年10月27日付

